

2017年に京都で ADI国際会議を開催

臨時・支部代表者会議で計画案発表

「家族の会」が主催 04年に続き二度目

「家族の会」は、2017年に国際アルツハイマー病協会（ADI）の国際会議を日本で開催することを決定しました。1月24日に京都で臨時・支部代表者会議を開催し、理事会から「2017年 ADI国際会議開催計画 I案」を示して説明し、了承を得られました。

具体的な日時、場所、会議テーマなどは、これからADIと協議して決定されてゆくことになりますが、「I案」では、時期は2017年3月から5月の間で日程は3日間、場所は京都、テーマは“認知症 次の時代へ 世界がつながる 日本でつながる～認知症の人も介護者も尊厳ある人生が送れるために～”となっています。

「家族の会」は、2004年にもADI国際会議を京都で開催していますが、13年ぶり二度目の開催となります。

2004年の国際会議は、認知症がまだ「痴呆」と呼ばれている時期の開催で、認知症問題は世界共通の課題だということを社会に認識してもらうことを目的としました。その会議で、九州の57歳の越智俊二さんが認知症本人の思いを語ったことで、国内的にも国際的にも認知症への認識が変わり、その後の認知症ケアのあり方に大きな影響を与えました。そして、国際会議の3ヵ月後に「痴呆」



国際会議への期待が多く語られた臨時・支部代表者会議。発言するのは関東澄子宮城県支部代表（1月24日、京都市右京区のコミュニティ嵯峨野）

が「認知症」に替わったのです。

2017年の国際会議は、世界的に認知症への関心と取組みが進み、国内では新オレンジプランが展開されている時期に開かれます。04年の国際会議が「認知症新時代」を招ききっかけとなりましたが、今度はさらにそれを「次の時代へ」進めて本人も介護者も尊厳ある人生が送れる社会を目指す国際会議です。また、国内の認知症や介護に関わる団体の連携、協働を進めることも目的にします。会員のみなさんにも出演、参加などの協力をお願いすることになります。具体的なことが決まり次第お知らせします。

なお、2017国際会議開催の正式決定は2月下旬のADI理事会で行われます。

認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）が発表される

政府は1月27日、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）を発表しました。発表に当たって、安倍首相を囲んで関係者の意見交換会が開かれ、「家族の会」を代表して宮城県支部の丹野智文さんが出席しました（P5参照）。

総合戦略には「基本的考え方」として次の7項目があげられています。①普及・啓発の推進 ②適時・適切な医療・介護 ③若年施策の強化 ④介護者への

支援 ⑤高齢者にやさしい地域づくり ⑥研究開発の推進 ⑦認知症本人や家族の視点の重視

これは、昨年の認知症サミット日本後継イベントの開会式で、安倍首相が厚生労働大臣に指示したことを受けた作成されたものです。作成に当たってのヒヤリングには「家族の会」から、高見国生代表や認知症当事者が招かれて意見を述べていました（ぼ～れば～れ1月号で既報）。

会員さん からの お便り

心身共に疲れ果て

東京都・Sさん 51歳 女

昨年6月に81歳の母は水頭症の手術をしました。歩行と認知症の改善を期待したのですが、認知症は数ヵ月の間に進んでしまい、介護していた私も乳がんになってしまいました。

私の病気を機会に介護保険の申請をした結果、要介護4でした。母と私は二人暮らしで、近くにいる伯父たちからは、私ががんになってもなお「いろいろ大変だと思うけど、お母さんの介護頑張って」と言われ続けています。

心身共に疲れてしまったので、他の方はどういうふうに介護を続けているのか知りたいです。

一人暮らしが不安、 同居も不安

埼玉県・Oさん 56歳 女

81歳の母はアルツハイマー型認知症と診断されました。電車で1時間半ほど離れた所で一人で暮らしています。私が週5～6日通っています。お酒が好きで、1日でワインボトル1本空けてしまいますが、本人は覚えておらず、飲むとうつ状態となります。睡眠薬を飲んでもらうことで、アルコールを減らす方向でいます。

同居を提案していますが、本人は転居になるのが不安。そして、一人で居るのも不

安というところで気持ちが揺れ動いているようです。今後どうするのが母にとって良いことなのかわからず困っています。

記憶力はザルのよう

千葉県・Yさん 58歳 女

87歳のアルツハイマー型認知症の母はペースメーカーを入れているので、詳しい検査は大学病院でないと出来ないと言われ、メマリーを飲んでいます。

12月に父が亡くなり、症状が進んでいるようです。要介護1ですが、記憶力が「ザル」のようです。同居はしていず、父と二人暮らしだった母を今後どのようにしたらよいのか妹と悩んでいます。

母が父にパワハラ

大阪府・Kさん 64歳 女

アルツハイマー型認知症の母と父は二人暮らしです。要介護2で在宅酸素を受けている父にパワハラをする母は要支援1の認定を受けていますが、介護サービスを拒否しています。食事も貧しく、宅配弁当を勧めても5日でやめてしまう。実家に私達姉妹が来るのを嫌う。などなど。一番困っているのは、父が精神面、身体面で生きる気力を無くしている事。母にもサービスを受けてもらいたいと思っています。

「家族の会」で笑顔を取り戻した

沖縄県・Tさん 72歳 女

認知症となってから無気力となった夫を、毎日外に連れ出すのが日課です。まだ初期認知症の段階で、身の回りの事は自立しています。

沖縄県支部中部地区会に夫と二人で参加したら、とてもいい雰囲気で、夫も笑顔を取り戻しました。

まだまだ、出来ることがあるので、車椅子ばかりのデイサービスには馴染みません。

自分の状態を受け入れられない母

福岡県・Mさん 45歳 女

市役所の福祉課で勤務しているので、隣の介護サービス課の方や地域包括支援センターのケアマネさんと連携して、介護保険の認定や介護サービスの利用はスムーズに手続きできました。でも、本人はなかなか自分の状態を受け入れられずにいます。

どんなに寛容に受け止めようと思っても、母が言い訳を繰り返したり、短期記憶がなく、わからないこともこちらのせいにしようとするのが重なると、つい、気持ちがささくれだってしまいます。きつい物言いをしてしまいます。

幸い、県内に住んでいる姉と連携出来ており、一方に負担が偏ることもなく、母が望むように一人暮らし出来るよう色々と手は打てると思いますが、進行が早いように思います。

義母も実母も認知症

島根県・Mさん 56歳 女

同居する86歳の義母は5年前にレビー小体型認知症と診断されました。現在は要介護5です。主人や義姉、特に義姉は義母が認知症であることが家族以外の人に知られるのがイヤという人です。義姉の言う事もよくわかりますが、私は地域の人にわかつてもらった方がいいという考えです。

私が坐骨神経痛になり、足腰が痛いのですが、介護は避けて通ることの出来ないも

のだと思っています。それというのも、子供の時から実母が祖母の介護をしていたのを目の当たりにしてきたからです。

義母は利用していた小規模多機能型施設の職員から、泊まりをしてもらうには夜に寝てもらいたいということで、入院加療することになりました。

また、実母もアルツハイマー型認知症で、デイサービスとショートステイを利用しています。弟夫婦が介護をしているので、私は義妹に対してあまり口を出さないようにしています。母を気持ち良く見てほしいからです。

認知症の人を介護することは本当に難しいことであります。やったことのある人でないとわからないと思います。この先義母はどうなるのかわかりませんが、「家族の会」に入り、いろんな人の話を聞いたり、私の経験が介護をしている人の参考になればいいなと思っています。

障害者控除の対象かも されません

千葉県支部・岩瀬松治さん

税の確定申告が近づきました。介護に疲れて、節税方法も知らずに過ごしている方も多いのでは……。介護は出費もかさみます。

市町村によって障害者控除対象基準はさまざまですが、基本は障害者に準じているか否かだけです。要介護認定の有無に関わらず申請できます。

私は4年間で約18万円の軽減措置が受けられました。根拠法令は、厚労省老健局平成14年8月1日発事務連絡と国税局タックスアンサー1185などです。

お便りお待ちしています！

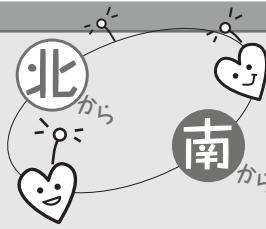
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル
京都社会福祉会館内 〈「家族の会」編集委員会宛〉
FAX.075-811-8188
Eメール office@alzheimer.or.jp

136 支部だよりにみる 介護体験

今回は 滋賀県

「介護4380日を終えて」

近江八幡市 北川須美枝



滋賀県支部版
(2014年11月号)



●人生を変えた過酷な12年間

23歳で嫁ぎ4人の子供たちに恵まれ、子育てもやっと一段落というころからの介護スタート。暴言・徘徊・物忘れ・失禁・おむつのまき散らし…もうこれでもか！というくらいの日々でした。何度も逃げ出したり、殺したり！死にたくない！それでもおむつを替えなくてはいけない…子供たちのこともある、生きていかなくてはいけない。震災で亡くなられた大切な命を思うと、どんな状況でも今があることはありがたいことですが、認知症介護の12年は本当に過酷でした。

誰の世話にもならないと言っていた気丈な義母が、記憶、言葉、意思、感情、体力…少しずつ失っていく日々。身内ならどんな状態でも長生きしてほしいと思う気持ちは誰にでもあることだと思っていましたが、あまりのひどさに、今生きていることが本当に幸せなのか？早く楽にしてあげたほうが幸せなのではと思わずにはいられませんでした。

●看取りに向けて

最後は老衰にて2013年12月に亡くなりましたが、3月頃から体調を崩し、いよいよ看取りに向けての体制を取りましょうと言われても、意味がよくわかりませんでした。今までの人生で身近な人の死は経験していましたが、直接関わってきたことがなかったので、介護とは違う不安がかなりありました。

しかし、その不安は12年前からお世話になっているケアマネジャーさんと介護サービス事業所の皆さんに支えてください、乗り越えることができました。3月からの寝

たきりが9月には起き上がるくらいにまで回復して、もしかしたら歩き出すのではと思うくらいにまで元気になり、とにかく振り回される日々を過ごしました。

12月に入り動きも少なくなり、13日、いつも通りにショートステイに行ったら連絡が入り「食事が入らず、いつもと違うので先生に診ていただきます」とのこと。先生は、かかりつけの先生から連絡を受けており、できる限りの対応をさせていただきます、と快く受けてくださいり大きな安心となりました。15日、食事は全く入らず、血圧が下がってきてると連絡を受け、様子を見に行くと静かに眠っていました。おそらく数日でしょうね、と言われ、なぜか不思議な感じで、ただ顔をじっと見ていたことを覚えています。17日、施設に行くと呼吸が荒くなり足のチアノーゼが出てきたので、もしもの時は連絡を頼み帰宅しましたが、その夜、息を引き取りました。身内ののみで静かにお葬式を済ませ最後のボタンは私が押しました。あまりにも長すぎた壮絶な介護生活が一瞬限り、これで本当に最後なの！と自分に言い聞かせ、子供たちに見守られながら4380日の介護を終えました。

●あの日があったからこれからも頑張れる

亡くなってすぐは寂しさや悲しみより、介護が終わったことの喜びのほうが多く、自分はなんてひどい人間なのだろうと、義母のことは密閉していました。一年が経ち、出会った29年前のことを思い出します。介護もしない方がよかったですけど、とても貴重な体験をさせてもらいました。きっとあの日があったから、これからも頑張れるのだと思います。

～多くの方に感謝をしながら～

担当は本部電話相談員です

“つどい”は知恵の宝庫

介護初心者の悩みに応える 94

親の代からのかかりつけ医との
かかわり方が分かりません



一緒に住む父（87歳）が何度も同じことを尋ねてくることがあり、認知症ではないかとかかりつけ医に伝えましたが「年のせい、親をボケ扱いにしてはいけない」と言われ検査もしてくれません。父もそう言われたことを信じきっており、物忘れを指摘すると怒り出し、専門医を受診することができません。親の代から家族全員がお世話になっているため、病院を変えるのもためらいがあります。どうしたらいいでしょうか。（相談者・娘 48歳）



介護経験者：他の専門医に診てもらいましょう どんな病気も早期発見・早期治療が大切です。かかりつけ医のことは気にせず、認知症専門医を受診した方がよいでしょう。遠慮は無用です。でも、かかりつけ医の言葉を信じきっているお父さんを受診させるためには、健康診断と説明したり、あなたの受診に付き合うという形にしたり工夫が必要でしょう。



医師 様子を見てからでもいいのでは永年のお付き合いで一番お父さんの体のことをよくご存じの先生が言われるのなら、もう少し様子を見られてからでもいいのではないかでしょうか。治療や根治薬は、まだ研究段階です。何度も同じことを言わっても話してあげてください。お父さんが不安を感じないように、かかわり方や環境を整えることを優先させてもいいと思います。



世話人 かかりつけ医の理解と協力を得る うちの母の場合も、家族以外の人の前、特に診察の時には、いつも通り以上にちゃんとしているので、かかりつけ医には全く気付いてもらえませんでした。「家族がつくった認知症早期発見のめやす」をもとに、気にかかっている具体的な状態

をメモに書いて持参し、きちんと伝えた結果、専門医受診に関してかかりつけ医の協力が得られました。



介護家族 専門医に受診したかったので、かかりつけ医に懇願しました 父が仕事の段取りが悪く、運転もスローになり、認知症ではと思い、専門医への受診の予約をしました。その際にかかりつけ医からの紹介状が必要と言われ、お願いしましたら「認知症ではない。年齢的にそんなもの」と叱られましたが、どうしても受診したく、懇願して書いていただきました。結果は脳の萎縮があり、アルツハイマー病の診断でした。



ケアマネジャー かかりつけ医と専門医の使い分けを お父さんも何かおかしいと自分で思っておられたのが、医師に「年のせい」と言われ、ほっとされているのでは。世話人さんが紹介された「めやす」でチェックして、早い受診が必要か、様子を見てよいかの目安にされてはいかがでしょう。ずっと診てくださっているかかりつけ医は大事です。専門医との使い分けをみなさんのお意見も参考にして、家族と相談してください。



いきいき 「家族の会」まちでも村でも

問題意識の高揚が「会員1人24筆」

群馬県
支部

昨年の介護保険に関わる署名活動では、会員1人当たり24筆という大きな成果をあげました。

田部井康夫支部代表は、2015年の介護保険制度改定に向けた介護給付費分科会委員として、認知症の人と

家族の心に響く政策の実施を求め、利用者側に立った論点の提案を続けています。

そして、支部会報の中でも、制度改定の議論の流れや問題点等を分かりやすく解説しています。

支部会報の記事が会員の問題意識を高め、「会員1人当たり24筆」につながったのではないでしょうか。

感動を得る映画と確信して上映会開催

山梨県
支部

富士吉田市地区会「はまなしの会」は、市包括支援センターとの共催で「ペコロスの母に会いに行く」の上映会を11月9日に開催しました。

高見国生代表の推薦の言葉等で感動を得る映画と確

信し、上映に至りました。会員、認知症理解普及活動を通じて出会った団体や個々のボランティアの方々の協力を得て予想を上回る781名の入場者でした。

映画を見た方々から「義母の今と全く同じです」とか「良い映画をありがとう」等の言葉を沢山かけて頂きましたと世話人の渡邊スミ子さんが語っています。

第2回兵庫県下「認知症家族会」の集まり

兵庫県
支部

この会は、2012年に神戸市で全国研究集会が開かれたことがきっかけになり、県下の家族会11団体と「1年に1回は集まりましょう」ということで生まれました。昨年10月に神戸市勤労会館で麦の芽会（姫路市）

はじめ7団体の代表と世話人等の14名で第2回目の会を開き意見交換等をしました。

介護保険の改定が検討されている中、認知症介護を支えるという共通の目的を持った者の組織が別々であるというのはおかしい。情報を共有し、共通認識を持つ必要がある等々の建設的な討議がされたそうです。

喜界島の人々のつながりに感動！

鹿児島
県支部

2014年11月14日、総人口7,800余名、高齢化率35%の喜界島で開かれた認知症フォーラムに123名の参加者。支部から3名の世話人が参加し、島の認知症理解促進に協力しました。パネルディスカッションでは、

支部はじめ行政、介護施設、医療関係者らがそれぞれの立場での活動状況を発表し、地域が一体となって高齢者を見守っていることが伺えました。

「つながれば希望が見えてくる 一人じゃない！多くの仲間がいます」の言葉を実感し、島の人々のつながりに感動しました、と水流涼子支部代表らが語っています。

国際交流委員会発 「ケアでつながる地球家族」



アジア太平洋地域の取組の巻

■発展途上国での認知症ケアを支援する指導者養成プロジェクト

アジア太平洋地域の発展途上国では、今後の急速な高齢化に備え、認知症ケアの指導者養成への関心が高まっています。しかし、これらの国々では、指導者を養成するための人材が不足しており、研修は随时、海外からの専門家に頼っている状況です。そのため、指導内容が一貫性に欠ける、文化的な違いによりその国の実情と齟齬が生じる、費用がかさむなどの問題が出ています。これらの問題を解決するためにADIは昨年12月より、国ごとに指導者を養成する「指導者養成プロジェクト」の準備を開始しました。

今年5月から7月には、バングラデシュで指導者養成研修モデル事業が始められます。現在、ADIアジア太平洋地域事務所では、世界各国の認知症ケア研修実践を参考にして、これらの地域にふさわしいテキストづくりが進行



モデル事業の行われるバングラデシュ。人口約1億6000万人のうち1日2ドル以下で暮らす貧困層が75%以上。現在の高齢化率は5%弱であるが、この国でも今後は高齢化が進む

中。日本にも協力要請があり「家族の会」の関わっている介護者研修のカリキュラムなどを紹介しています。本人と家族介護者の視点を重視した「家族の会」からの情報は、途上国の研修にも大いに参考になるものと考えます。

（国際交流委員 鶩巣典代）



仲間と出会い
話したい人

今月の本人

若年期認知症の人の働きたいに応える場 !-brain (エクスクラメーション・ブレイン)

1月21日に京都市伏見区の商業地域のビルの1階にある!-brain (障害者の自立、就労支援施設)におじゃました。元カフェの事業所は、ゆるやかな円形を描いた窓に面してカウンターがあり、2階は吹き抜けになっている仕事場。クルー（利用者）が10台ほどあるパソコンでの入力作業、2階では箱おりなどの軽作業の仕事をしておられました。スタイルで「行きたいな」と思う場でした。

マネジャーの徳永一樹さんと就労支援員の畠野秀美さん、クルーの中西栄子さんにお話を聞きました。



作業中の中西さん（左）と支援員さん

（編集委員長 鎌田松代）

1

クルーの中西栄子さん（若年期認知症、67歳）

「もう一度、教壇に立ちたい」をかなえるために

毎週水曜日のお昼前に開催されている女性利用者だけの会に、中西さんは人生の先輩として、年若い人たちの体験話にアドバイスをされています。今回はご都合で間に合われませんでしたが、音楽の時にも小学校教員で培った力を発揮されているそうです。

昼食後の後片付けや、自立訓練の一環のSST（ソーシャルスキルトレーニング）のロールプレイでもコミュニケーションの取り方を示してくださいっており、畠野さんたちでは難しいことを、さらりと教えてくださっているとのことでした。

教員としての知識や技術、人生経験が、今困っている方の支えになっていました。

りあげる!!」がコンセプトと徳永さん。中西さんは「この作業難しい、なかなか覚えられないわ」と言いながらも、次々に仕事を片付けておられました。自由におおからに、負担ない表情で過ごされているのが印象的でした。仕事の納期が迫っていたら、みんなで頑張って仕上げているとも伺いました。自由と責任、社会人として、一人の人間としての特性を大切にしながら、人生に向き合っている素敵な事業所でした。

若年期認知症の初期の方が利用できる場がないことを、電話相談やつどいでよく聞きます。若い方が多く、給与もある就労継続支援事業所での取り組みは画期的でした。このような事業所が広がればと願います。認知症ということより、その人としてみるので抵抗はないと支援員の言葉もハーダルが低くなりました。

2

大事にしていること

社会の一員として「働きたい！」「自立した生活を送りたい！」という前向きな気持ちを応援。クルーの社会人としての「自由」と「責任」を大事にしておられます。

「I and I make it !!」「みんなで作



パソコンがならぶ
事業所内

事業所概要 2013年2月1日にオープン	
サービス 内容	自立訓練（生活訓練）定員10名 就労継続支援事業B型10名 多機能型事業所
利 用 対象者	知的・発達・精神・身体に障害のある方、若年期認知症の方
作業プロ グラム	パソコン作業、事務軽作業ダイレクトメールなどの封入作業・伝票仕分けなど

事務所までは基本的に自主通勤



交流の場

（詳細は各支部まで）

宮城●3月5日・19日(木) 午前10:30～午後3:00／翼のつどい→泉社会福祉センター
埼玉●3月21日(土・祝) 午前11:00～午後2:30／若年のつどい・越谷→中央市民会館
神奈川●3月8日(日) 午前11:00～午後3:00／若年期本人・家族のつどい→ほっとほっと
新潟●3月14日(土) 午後1:30～4:00／新潟市のつどい→総合福祉会館
富山●3月7日(土) 午後1:30～3:30／てくてく

るぼうずの会→サンフォルテ
岐阜●3月15日(日) 午前11:00～午後3:30／各務原市のつどい→ニッケカカミ野苑
静岡●3月7日(土) 午前10:00～午後1:00／若年性のつどい→富士市フィランセ
愛知●3月14日(土) 午後1:30～4:00／元気かい→しあわせ村
滋賀●3月11日(水) 午前10:00～午後2:00／ピアカウンセリング→成人病センター職員会館
京都●3月15日(日) 午後1:30～3:30／若年のつどい→京都社会福祉会館

奈良●3月7日(土) 午後1:00～3:30／若年のつどい→奈良市ボランティアセンター
鳥取●3月25日(水) 午前11:00～午後3:00／中部にっこりの会→倉吉市・かふえとまと
広島●3月21日(土・祝) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会北部→三次市十日市コミュニティセンター
熊本●3月7日(土) 午後1:00～3:00／若年期認知症のつどい→県認知症コールセンター
大分●3月7日(土) 午後1:30～3:30／若年性認知症のつどい→県社会福祉介護研修センター